

俺俺同人
が妹の
描かないが
ない



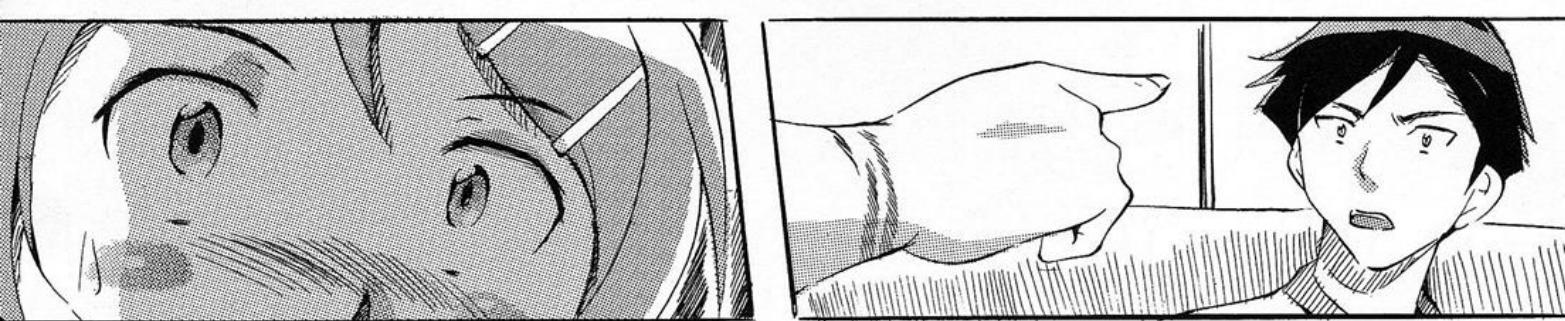
busou



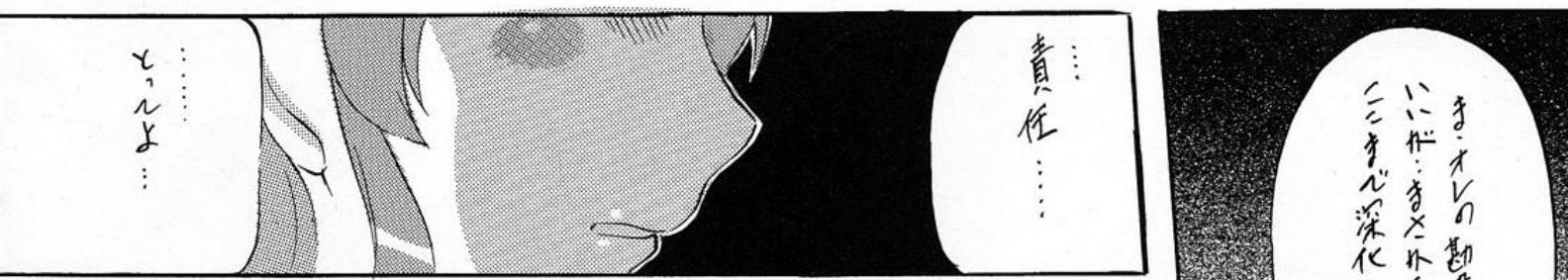
megami

たたこ















…よく好き勝手
がいいから…ひそ
かじんが思ひ

わ…

何の上

ああああああ

…えええ…
ええええええ

…た…と…
ええええええ

なー桐乃ー

身体の自由が
制せられるだよな
ここは…

待てよ…

ほれ。
お仕事

あたまりー。
オレに付かれてなー、ハナダ
ハハハハハハハハハハハハハハ

何はイ?
何がうるー。

なー何がんば
!!

依然出来方をんが
いれやよ:





カッセネ!!
普段のお返しだ

どうだ!!
相乃!!

ぬねんま



音
仲
な
れ
た
よ
う





……と……まよ……

びうだ相手に
大人用のバイグの本は

かわ…

…モレ…イジ…め…

だらだら…オレの…
…素直に聞くんだがな

うん

アメビヤセラ
トマシナアドリナス

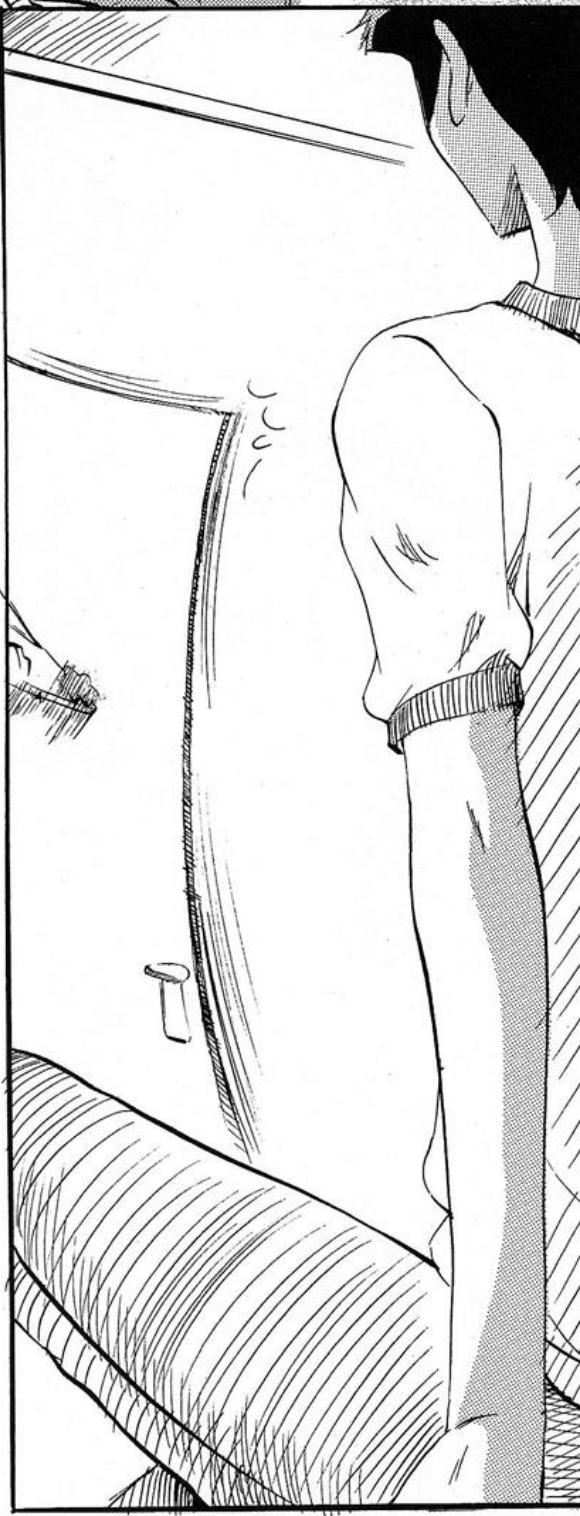
こんなオヤジ
待ってるんだからうが

オレの妹に限る

おんなづけはほ

私を「人間肉体」として
責任は:

あれからどうぞ
どうもどうも



俺か俺妹の同人を描かないわけがない

“オレ妹”です。別に流行りに乗ったわけではなく、私自身、妹モチが大好きで、商業誌でも何本も発表しています。妹モチはシステム以降、今や一つの大好きな市場として認知されていますよね

ただ…そう、システムにもたらしたこれらのものは、あくまで“妹萌え”と言うジャンル。

妹モチに対し、尋常ならざる愛情を持ち、あるいはアイドルジャンルでは平然と一線を越えようとしています。こう言ふ倫理を逸脱した事を堂々と“萌え”と言ふのは、あくまで“ジャンル”であるからだと言える。逆に言えば、アニメにおいて“妹”と言う存在は今やリアル妹の、ない人達に、この偶像崇拜的な存在として捕かれなくなってしまった…と言うのが現状と言えろじよう。そんな中、この現状に“異”を唱えろべく降り立つのが今回の“オレ妹”と言う作品…！）

何うタイトルにこれほどピストレーに“妹”と冠している作品があるにも関わらず、内容的にはまさに今のアニメ界に存在する萌えな妹達をあざ笑う形のごとく、兄に対する愛情をまたたく間に、ほじておなじ鉄の妹の物語。こう書かれてますよって大げさに聞こえるけど、実は桐乃の京介に対する接しあって、極めてまじめな態度だと思うのですわ。リアル妹がいたとしても、現実の妹なんぞこんな感じなのだと言ふことに手に取るようになれば、くると言ふますわ…まあ、異性だからこそ余計にケリケリになつて（お）うと言ふ所があつて、ジンツンな妹に対する何も見えない京介の気持ちが痛いほど伝わって来るのですわ。ただ、ここで大きくピキッているのに、そんな妹が大の“オタク”であると言ふ点。この設定によると、遠い存在になるはずの桐乃と言うキャラクターが一気に我々の所に降りてくるというワケです：まず、自分に妹なのに妹モチが好きと言うのは…そこは別にBL的なモノでいいんじやね。これ実、込み所はあるのですが：

このアニメにはそんな桐乃のオタクであるが故の悩みと言うのを真正面から描かっているのも大きな特徴と言え…例えばこう言ふ、た趣味に理解を求める、オヤジであらわす、オタクは犯罪予備軍であろうとか、あれこれオタク諸氏が見るアニメの中でこう言ふ、た問題を取り上げるところは画期的なことだと思しますわ。“オレ妹”が決して前評判倒れにはならないのは、こう言ふ、たリアルな描写をすごく大切にして、例えばオカ会にならなか周りとなじめない様子であたりとか…友人の確執であたりとか…こう言ふ、た部分にある種のつまらない桐乃と言うキャラクターをより身近に感じさせてるのに一役買っているのですわ。特に京介に対する妹ゲーをプレイするように強いる場面はほほえましいと言ふか…この兄妹の関係もまた大きな部分で、「妹モチ好きなのに自分はもうじやないのか」という京介の空込みに対する、自分と言う関係になりたがつて、いると断遣つた桐乃に躊躇なく「キモー！」と言ふ所たり…。そもそも第五話において、桐乃が京介にそんな態度を取り続ける理由の一端が垣間見えて、改めて兄妹の絆を取り戻すとする京介の姿が良かたです：これ以降、二人の関係は明らかに変わってきて…特に第六話はそれを象徴するような話でしたわ。この回は京介が姉妹の家に泊まりに行き、家を留守にすると言う話で、桐乃の出番は少ないので、もうとにかく桐乃が可愛いくてこの上ない（笑）

兄の部屋のドアを足でこぎこぎしたり、

食事中は、普段は隣に座る、いわばはずの足のイスを蹴って叫び… 固いツバが父親と同じ場所にいることに居心地の悪さを感じ("いいえ、兄のことを精神的に支えたいから様子が手に取るようにならぬ、ときますわ： 最後はベッドで「帰らぬ人」…と枕を枕に(ぐすりく…あでやけり足音にいなくて寂しいんだ…と…ソリに無くて感情の流れがソラに伝わるとき…やけり。ソリにでも中学生なじたなって… この回を観て桐乃に乗り換えた方も多いのだけれど思ふく)い桐乃の魅せ全開のエピソードでしたわ： (それにしても…アドレセンス的な声だ、たのねと今さらな感じ認識…今回の一本立ちのヒロインなのに声を立てるますわ…いや、立てるます：)

ただ…これだけ語っておきながら「マンガ」の方はどうかと言うと、正直良く見れました。髪止めやヘアモなど、記号も少い…どうとかと言うと似せやすいキャラクターと思われますが…あまりに似ない…自分で驚いてしまいましたわ。これで、おそらく設定にある“美人”と言う所に起因していると思うのですが、描かれてるところは、彼女もドブクリとして…設定を追うとどうしてモパンマンみたいになってしまったのかな? アニメのような“美人顔”にならないので苦労されたわ： モミアゲで顔を細くしたり、鼻を少し高くしたり、アニメの雰囲気に近づけました。SM、ほ、キタにしようと言うのは最初から決めていました。おそらく星の数ほど出でてある! 他サ-ケル様の本と差異を付けたかったと言うのもあります(笑) まあ言いつつ…した娘は縛られたりするだろう、と…でも、冷静に二人のキャラクターを考えれば、そんな展開に自然に持つべきわけがなく… たぶん普段ならば私の場合、ここで本編に影響のないオリジナルを持ち来るのですが、今回はそれは絶対にダメだと：“妹”と言う呼称は“兄”がはじめて成り立つものであって、ワクワクの男子生徒や先輩などを揃えて来れば、それはもう“妹”も“姉”もわけなくなってしまう。だからこそ、相手は意地でも京介でなければならなか。

結構、京介の性格を考えれば、手綱を握るのは桐乃…と言う方向にはなりましたわ。我ながら、今回は本当に強引過ぎたと反省しています！

服に関してはどちらも制服…?! もうこれしかありません： 桐乃の場合、読ももやしていろので、オシャレな服を着ているシーンの方が多く、あまり制服のイメージはありませんが、やはり制服と纏は相性バツキなので(笑) こだわりました：

オレ妹本をお求めになる方はおそらくお店で複数冊お手に取られることが多いと想われるですが、その中にこの一冊も入っていました： 本体にうれいの限りです！

[奥付]

[発行日]

22年12月11日

[発行]

太陽出版株式会社

[著]

神無月かんな [サ-ケル武装女神]